

人権啓発映像教材

見上げれば

日野友輔

中山 忍

中山脩悟

海 斗

柴田理恵



企 画：兵庫県・公益財団法人兵庫県人権啓発協会 企画協力：兵庫県教育委員会 制 作：東映株式会社

上映時間34分【字幕・副音声付】

予告編はこちら



【C#7342】



東映株式会社

企画意図

ひきこもりの背景や状態は人それぞれですが、長期化すると社会や人に対する恐怖感が強まり、本人や家族の人生に深刻な影響を与えます。就職・再就職の難しさ、家族もどうしていいかわからず心身が疲弊するなど、その苦悩は計り知れません。さらに、地域社会との関わりが乏しく存在が見えづらいため、家族だけで悩みを抱え込む現実があります。

このドラマでは、できるだけ早い段階で適切な支援につながることの重要性、信頼できる他者とのつながりや、寄り添ってくれる人のいる「居場所」が回復のきっかけになることを伝えます。どのような状況の人にも、寄り添い合い、誰もが支え合える社会の実現をめざし、人権啓発ドラマを制作しました。

社会におけるひきこもりと人権

誰もが支え合える社会の実現をめざして



あらすじ

大学入学後にひきこもりようになった、主人公の由良陽人。

陽人を案じる母・園子^{そのこ}は、ひきこもり支援を行うNPO法人「のじぎく会」を訪れる。帰りがけにスタッフと思しき青年に声をかけられるが、それは陽人の中学の同級生・壺井樹^{つぼいいつき}だった。気まづくなり、すぐに立ち去る園子。

ある日、陽人の元に音信不通だった樹から突然、自作ゲームのリンクが送られてきた。それは中学時代に樹が作り、二人が夢中になったゲーム「ランナウェイ」の新作だった。その日からオンラインで交流するようになった陽人と樹。ゲームに夢中だった日々や、偶然二人で一緒に見た流星群の思い出話にも花が咲く。

昔のような楽しさを感じ、「つながり」が陽人の心を開いていくが、父・誠吾^{せいご}の理解のない言動に辛かった過去を思い出してしまう。途方に暮れた誠吾と園子がのじぎく会を訪れると、精神保健福祉士の太田紗枝^{おおたさえ}は「陽人さんが今したいこと、できることを見守ってあげてほしい」とアドバイスをする。

しかし陽人は樹が接触してきたのは、園子が頼んだからだと誤解したことで再び心を閉ざしてしまう。陽人を心配し由良家を訪れた樹は、陽人の部屋のドア越しに、自身もひきこもっていた過去を打ち明ける。「ただ陽人に会いたい一心だった」と語る樹の正直な思いに、陽人は何も言葉を返せなかった。

数日後、樹が周囲と連絡を絶っていることを知った陽人。不安に駆られ、樹からのメッセージを見返していると――



(公社) 尼崎人権啓発協会
マスコットキャラクター あまっぴー

公益社団法人尼崎人権啓発協会

〒660-0051 尼崎市東七松町1丁目23-1 (尼崎市役所内)

電話06-6489-6815 FAX06-6489-6818

ホームページ <https://hcg22501.wixsite.com/hcg22501>